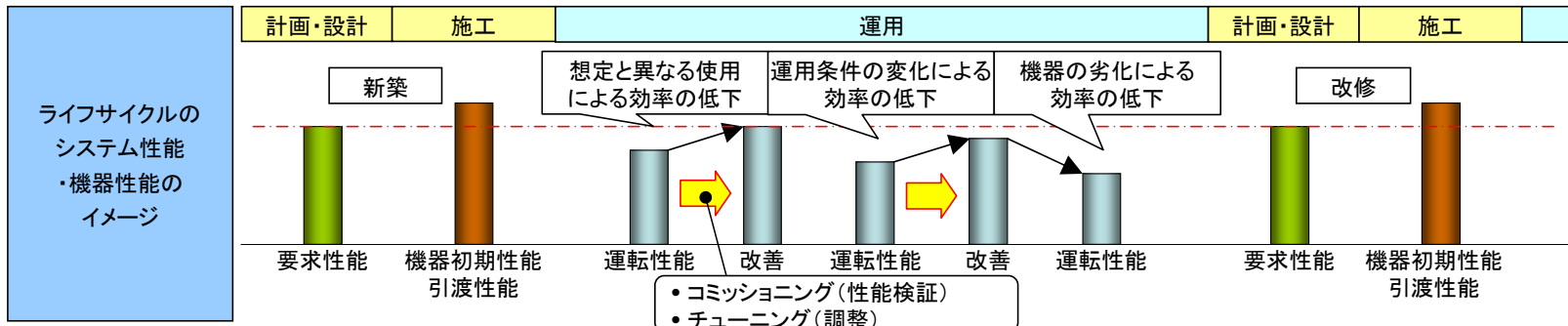
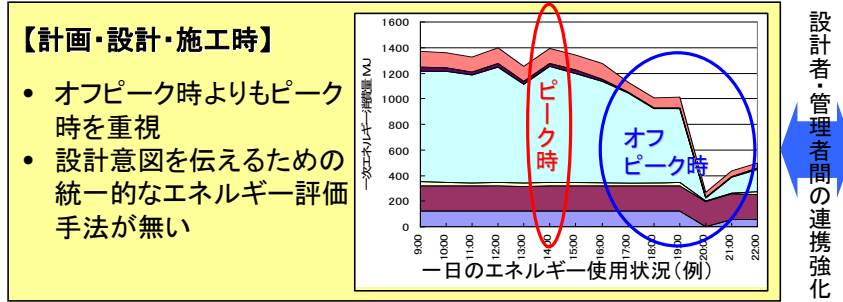


LCEM手法の検討の背景及び目的



効果的・効率的運用のための課題



【運用時】

- エネルギー使用状況は常に変化
- 施設管理者独自の知見で運転・調整される可能性
- ライフサイクルを通じての省エネ目標設定方法、管理指標、確認方法などが不明確

空気調和システムの総合的なエネルギー性能評価手法 (LCEM(ライフサイクルエネルギーマネジメント)手法)の構築

本手法により期待される効果

- ライフサイクルを通じた効果的・効率的なエネルギーマネジメントが可能に
- 設計者、施工者、施設管理者が共通の指標(ものさし)で空気調和システムの評価が可能
 - 設計意図を踏まえた適切な運用・管理が可能
 - 運用状態を適切にモニタリングすることが可能
 - モニタリング結果を活用し的確なコミッショニングを実施することが可能